

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



KAWASAKI CITY

平成27年10月19日（月）～平成27年10月25日（日）【第43週】の感染症発生状況

第43週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) RSウイルス感染症でした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は5.48人と前週（4.67人）から増加しましたが、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は3.21人と前週（1.82人）から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
 RSウイルス感染症の定点当たり患者報告数は1.06人と前週（0.76人）から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎患者が再び増加しています

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、毎年、冬から初夏にかけて緩やかなピークを描いて患者数が増加します。今年は、4月以降過去最多の患者報告が続いており、夏には一時的に減少しましたが、9月以降再び増加傾向がみられます。冬にかけて、インフルエンザ等と同様に注意が必要になりそうです。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎とは？

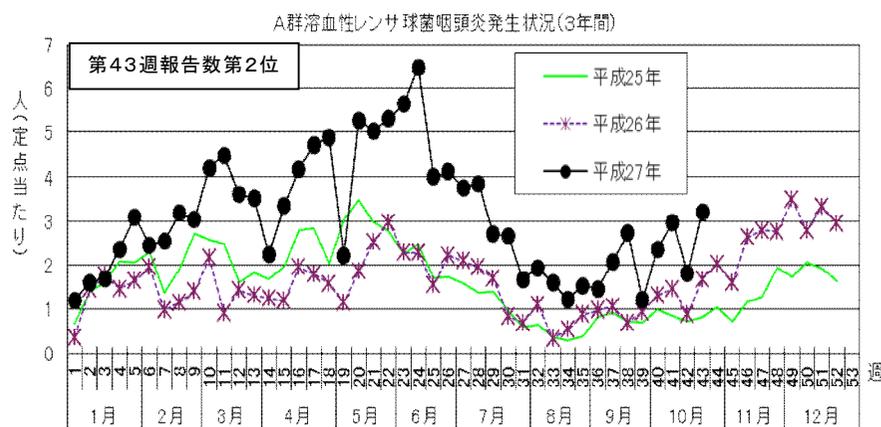
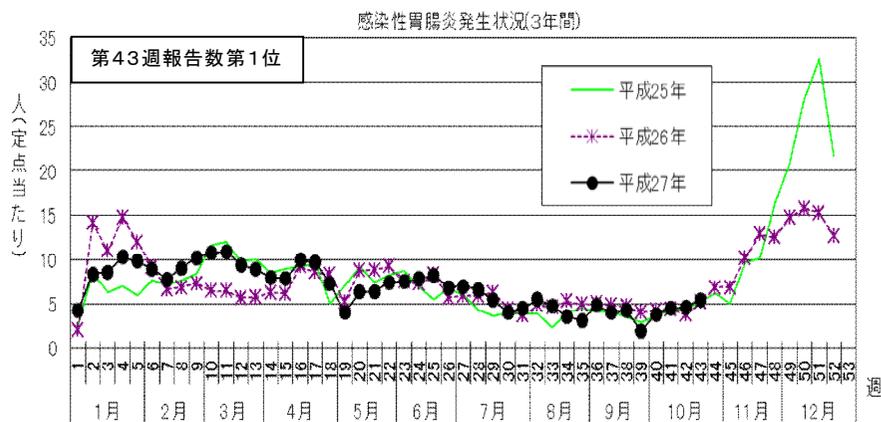
感染経路：唾液や鼻水への接触・飛沫感染

潜伏期間：2～5日

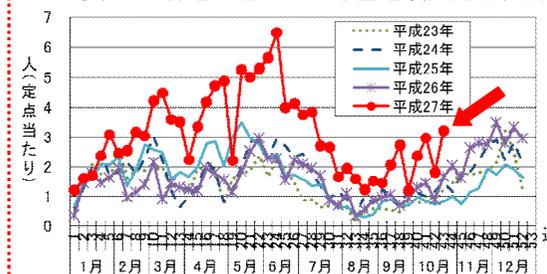
好発年齢：就学前後（4～7歳）の小児

症状：突然の発熱（38℃程度）、倦怠感、咽頭痛から始まります。体や手足に小さくて紅い点状の発疹が出たり、舌がイチゴのように赤くポツポツした状態（莓舌）になることもあります。

治療方法：治療には抗菌薬が有効です。早めに医療機関で診断を受けて、主治医の指示どおりに薬を飲みましょう。



川崎市のA群溶血性レンサ球菌咽頭炎発生状況



学校・保育園等欠席者サーベイランス情報
 【溶連菌感染症と診断された保育園児報告数※】

